

ひだご坊真宗教化センターだより 2021年5月号

発行日2021(令和3)年4月28日 第10号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞

高山市鉄砲町6 ☎ 0577-32-0776 web <http://hidagobo.jp> ✉ takayama@higashihonganji.or.jp

この瞬間の変化点

コロナ禍2度目の春を迎えました。第4波の感染拡大が見え隠れする中、学校では、在校生のいない卒業式、入学式。企業では、送別会、歓迎会の縮小や中止等、これまでの私たちの日常とは異なる、いわゆる、「新しい日常」が広がっています。

寺院活動においても、お齋の中止、行事の縮小・中止等の動きは、防疫の観点から止むを得ない状況であり、また、お葬儀への参列が焼香だけで済まされる「葬儀の告別式化」は、どの寺院においても、「これまで」に対して、大きく変化を感じておられる事の一つでしょう。

飛騨御坊真宗教化センター伝道部会幹事の任を受けての1年、センター事業運営に携わる中、近年の報恩講を筆頭とした諸仏事の参詣者の減少や、ご門徒を含めた各役職の高齢化、後継者不足の問題、等、ここ数十年で顕在化してきている問題に当事者として直面するようになりました。同様の問題は自坊においても感じているところであり、同様の問題を実感しておられるご住職も多いのではないかと思います。

現在、宗門では、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業の重点教化施策の一つとして、「真宗の仏事の回復」が進められ

ています。

「回復」の意味を辞書で引くと、

1 悪い状態になったものが、もとの状態に戻ること。また、もとの状態に戻すこと。

2 一度失ったものを取り返すこと。

とあります。以前は良かった、以前は有ったもの、それが失われてしまったが故の回復です。

私たちは往々にして、何かが変化し、失われていく渦中ではそれに気づけず、失われた後になって以前との差分に戸惑います。気づけない理由は多々あるでしょうが、通常はその時間変化の度合いが非常に遅いことも一因でしょう。一時期、ゆっくり絵が変わっていく変化に気づいた時の驚きが脳への刺激になるという「アハ体験」(アハはドイツ語で「なるほど」の意、ドイツの心理学者カール・ビューラーが提唱した心理学上の概念)が流行りましたが、それと同じで、パッと瞬間的に変わる変化には気づけても、ゆっくり時間をかけた変化にはなかなか気づけない。変化の渦中にいる当事者である時はなかなか気づけないことは私達が持つ特性です。

前述の近年顕在化している問題は、近年よく言われる「寺離れ」という言葉に集約されます。この変化は、社会情勢、家族構成の変化によることも大きいでしょうが、私達はその変化の

兆しを見過ごしてきたが故に、失われた後になって、その回復を叫ばなくてはならない状況になっています。失われたものの回復にはその継続以上の時間とエネルギーが必要です。

コロナの収束まではあと数年かかるとも言われます。その間に、私達の先輩方が大事にされてきたもの、私達が受け継ぎ、伝承して行くべきものが、悪い状態にならないか、失われたいか、私達は特に注意深く気にしておかねばいけないと考えます。コロナ禍による変化は短期間の劇的な変化だからこそ、注意深くあれば気づけるはずで

私たちが伝道部会では、次年度の活動計画の主たるものを本年度事業の拡充としました。これは、消極的計画ではなく、確実な継続を念頭に置いたものです。

気を抜かず万全の守りをしつつ、今、世の中が大きく変化している渦中だからこそ、コロナ禍から抜けた時、後に回復が必要な状態になっていることなく、「コロナ前」を如何に継続できているかが重要ではないでしょうか。私たちがアフターコロナを意識すべきは、「今」、でしょう。

伝道部会幹事

高山一組 了泉寺 北條秀樹



★センター・別院からのお知らせ★

第7回 企画会議報告 4月27日開催

2021年度 御坊センター・別院の事業計画及び予算について

第1期御坊センター2年目となる来年度の事業計画及びセンター予算の作成作業に着手した。各部会及び別院から事業計画案及び予算概算が提出され審議がなされた。

今年度はコロナ感染症の影響により、事業の縮小延期、中止が相次ぐ中、「届ける教化」を意識した取り組みがなされてきたが、来年度についてもその流れを引き継ぐような事業案が提出されている。

新年度事業については、6月に開催されるセンター総会の承認を経て、7月の院議会で議決されて決定となる。

今年の別院報恩講に向けて

センター4部会の集大成として別院報恩講を勤修することが確認されているが、報恩講での教化の取り組みとして、帰敬式の執行にあたっての実行委員体制が整えられ、今年1400回忌を迎える「聖徳太子展」や、「ご坊報恩講の夕べ」の開催について確認がなされた。

2021年度「御回壇」について一開催についてご確認いたしますー

昨年は、新型コロナウイルス感染状況に鑑み、やむなく御回壇を中止しましたが、今年度は何とか執行したいと考えています。

しかしながら、第4波、変異種の蔓延が心配され、予断を許さない状況が続いていることから、各寺院の意向を確認のうえ、それぞれでの開催の決定をいただきたく、すでに各寺院宛に確認の依頼状を送付いたしましたので、同封のハガキにより、**5月14日(金)までに返信下さい**ますようお願いいたします。

真宗公開講座

5月12日(水) 午後2時～

テーマ:同朋会運動の歴史とこれから

講師:太田浩史氏(高岡教区大福寺住職)

会場:別院本堂 参加費:500円 主催:一組真宗の会

5月24日(月) 午後7時～

テーマ:仏心とは大慈悲これなり

講師:朝戸臣統氏(本願寺派神通寺住職)

会場:別院本堂 参加費:500円 主催:真宗同朋の会

「是旃陀羅」問題に関する学習会の開催

とても大切な問題です。立場・役職に関わらず、是非ご聴講ください。

2013年、宗門は、『観経』における「是旃陀羅」の差別性について、部落解放同盟広島県連から厳しい問題指摘を受けました。

真宗大谷派宗門は、いったい何を問われているのか。今、その問いかけを聞くべき時が来ています。立場・役職に関わらず、皆さま、ご聴講ください。 ※4月上旬に、各ご寺院には要綱を送付しております。

期日:5月14日(金) 午後1時半～

講師:中山量純氏(解放運動推進本部) 会場:別院御坊会館

<死と再生>

■葬式は帰敬式である①—葬儀概観

葬式の時に髪剃をするなどさんざん言ってきた。帰敬式の意味が理解され受け止められれば、おのずと真宗の葬儀の意味が明らかとなるとも申し上げた。

ここからは、「葬式は帰敬式である」という話をしていきたい。そこで先ず、葬式とは何であるのか私の考えを述べさせてもらう。

【葬式の始まり】「葬式」というものは、いつ頃から始まったのか、それは遙か遠い昔。精神医学や文化人類学では「葬儀を始めた時から人は人間となった」と言われる。すなわち葬儀は「人間」とともに始まった。

【共同体】葬儀は、「共同体」、つまり関わりの中で生まれてきた。家族は、他家からの一人を迎えてきてくる。又、家族の一員が他家に嫁いで別の家族をつくる。そして親戚ができ仕事仲間ができ友ができる。狩をする生活から田畑を耕作する生活に変わり、共同体は大きく進化した。この共同体は、一人ひとりの生き死にと深く関わってくる。「死」は一個人の死ではあるが、共同体が関わる重大な儀式となった。

【まる投げ】しかし、現代はグローバル社会といえながら逆に足許の共同体をないがしろにし、地

域や町内などの共同体の絆が薄れて、今では葬儀社にすべてをまる投げせざるを得ない状態。従って自然に助け合いがなくなり、無縁社会が進行していく。以前、あるフォーラムに参加したとき、「あなたはどんな町内にしてほしいか」の設問に対し、答えは「ひとりぼっちにならない町内」であった。なんと思いと現実のうらはらなことか。

共同体が関わることなく葬儀社に全部まかせるので、葬儀の大切さがわからない。そして、わからないまま親族や地域の葬儀を出すことになっていく。「死」といういのちの厳粛なる事実が見えにくくなってしまっている。

【人間放棄】従って、「仏事」という主体的行為を、他人にまる投げしているのと同じことになる。しかも、葬儀社は葬儀を営利として引き受けているので、そこには各宗派に配慮した形はあっても、それ以上のことを求めるわけにはいかない。まる投げによって、長い時を経て培ってきた助け合いの文化的遺産が壊されてきている。

そういう時勢を作り、そういう時代となってしまった。最後に残る最小単位は家族であるが、この家族の在り方も、核家族化や子どもの遠方への転出によって様変わりしてしまった。家族の死が、団結し、生きる意味を知る力になるどころか、「人

間」を放棄するに等しく、その行く末はバラバラになるよりすべはないように思われる。

■葬式は帰敬式である②—真宗葬儀次第

時代の流れがいかように変わろうとも、仏式による葬儀次第がいかなる意味をもって執行されているのか知っておくべきである。特に、真宗葬儀の意味を知って会葬するのと、知らないで会葬するのとでは、天と地の差がある。

【お通夜】葬式の前段階がお通夜。お通夜とは単なる徹夜のことではない。明日になれば出棺し火葬なり埋葬される。故人の遺体が形あるうちに、夜を通してでも念仏によって〈いのち〉を思わせてもらうことをお通夜という。合掌することをただの習慣だと思っはいけない。いのちと引きかえに、この掌が合わさっているという事実深く思いをいたすべきだ。

お通夜は、故人の死を受け止める時間。遺体がまだ温かいうちは死亡と認めたくない。その感情を、一夜をかけて自分に言って聞かせ、そして目の現実を覚悟する。昔の人は亡くなったことを、「どうどう冷どうなった」と言った。底知れず冷たくなっていく遺体に、思い及ばぬ事実を知った言葉だ。ここに真宗門徒は次の教えをかみしめてきた。

一口法話 web ひだご坊で配信中!

<https://hidagobo.jp/>

5月1日から31日のお話

三島 多聞氏 (高山別院輪番)

四衢 亮氏 (高山一組 不遠寺住職)

内記 浄氏 (高山二組 往還寺住職)

北條 秀樹氏 (高山一組 了泉寺住職)

※印刷したものの郵送をご希望される方は、教務支所までご一報ください。

「高山市民時報」法話連載をスタート

4月から、高山市民時報社と提携して、同社発行の『高山市民時報』に法話の連載が始まりました。教区内僧侶による月4回の掲載となります。頒布地域は限られますが、購読されている方はご覧いただけますようご案内いたします。

テレビ番組 ごぼうチャンネル!

<YouTube 配信中>

チャンネル登録お願いします(^_-)☆

各ご家庭に真宗のメッセージをお届けしようと作られたのが「ごぼうチャンネル」です。

過去のものはYouTube 配信中しています。

チャンネル登録お願いします(^_-)☆



佐奈姫ちゃん

★ご坊 de 法語★

ご坊内に掲示されている法語の一部を紹介します。



何でもわかっている 暗さ 藤元正樹

自分の気分の中で 退屈している 宮城 顕

仏法は賢くなる道と 思っていたが 愚かさに気づかされる 道でした

人間なのに “間” を失っている

飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2021年5月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	会場
1	土		組 高山一組親鸞教室②	
2	日			
3	月	13:00	別 三日のご坊 法話:澤邊 恵亮氏(誓願寺住職)	本堂
4	火	7:00	別 半日華	
5	水			
6	木			
7	金	13:00	セ 青少年部会会議	ミーティング室
8	土			
9	日			
10	月	14:00	真宗同朋会執行部会	研修室
11	火	13:00 14:00	別 大谷婦人会定例 法話:輪番 教 教誨師・篤志面接委員会研修会	御坊会館 研修室
12	水	14:00	高山一組真宗公開講座(講師:太田 浩史氏)	本堂
13	木	7:00	別 前住上人ご命日	本堂
14	金	13:30	教 「是旃陀羅」問題学習会	
15	土	7:00	別 半日華 組 高山一組親鸞教室③	
16	日			
17	月	13:30	教 同朋の会推進講座打合せ	
18	火			
19	水	13.30	教 高山一組 組門徒会研修	御坊会館
20	木			
21	金			
22	土			
23	日			
24	月	19:00	セ 真宗公開講座(講師:朝戸 臣統氏)	
25	火	13:00	教 高山支部坊守会研修会(講師:三島 多聞輪番)	研修室
26	水	7:00	別 半日華	
27	木	13:00 19:00	別 親鸞聖人お逮夜 教 教化研究所	本堂 研修室
28	金	13:00	別 親鸞聖人御命日 法話:日野 光洋氏(桂林教会住職)	本堂
29	土		組 高山一組親鸞教室④	研修室
30	日			
31	月			

6月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
4	金		連 連区同朋の会推進研修会	10	木	13:30	教 教化研究所課題別講義
5	土		組 高山一組親鸞教室⑤	12	土		組 高山一組後期講習(～14日)